



中研レポート No.16 (年2回発行)



発行 自動車安全運転センター 安全運転中央研修所

旅客自動車（バス）運転者課程の紹介

旅客自動車（バス）運転者課程では、事業用旅客自動車・送迎用バス等の運転者を対象に、旅客輸送業務の安全性向上を図るために実務に応じた理論研修と実践的な実技研修の組合せによって、プロドライバーとしての資質向上のために総合的に学んでいくことが出来るカリキュラムを組んでいます。



【理論研修（交通危険学）】

運転に際して、実際の危険状況に陥らない行動を取るために、運転状況に潜在する様々な危険源について体系的に学びます。



【ブレーキング】

道路環境の違いによるブレーキ操作を体験し、車両の特性と安全の限界を学びます。



【基本走行（スラローム走行）】

正しい運転姿勢が人間の能力、車両性能を發揮させるために重要であることを学びます。



【スキッド走行】

横滑りやスリップを体験し、車両の特性と安全の限界を学びます。

コースは4日間コースから3日間コース、2日間コース、1日コースを用意しており、いずれのコースも限られた時間の中で皆さんの要望にお応えできるよう充実した内容としています。

理論研修では、車両の機能と現象を理解する「車両の特性」や、実際の交通場面で危険な状況に陥らないための「交通危険学」などを学びます。

実技研修では、「日常点検」「基本走行」「ブレーキング」「高速周回路走行」等の走行研修でドライバーの能力の限界を体験した上で、車の限界を体験する「スキッド走行」や、危険に直面した場合の危険回避要領を体験する「危険回避」を通して危険に近づかない運転行動を再認識する研修が行われます。

更に、夜間における視認性や蒸発現象を体験する研修なども用意されており、研修全体を通して、危険を安全に体感しながら、運転の基本を再確認することができます。

研修修了後には多くの研修生から交通安全意識が向上したとのお言葉をいただいていることから、ドライバーの安全運転に多大な効果を發揮しています。

企業等にとって事故が減ることは事故による支出経費削減につながり、間接的に利益向上になるとともに安全輸送に取り組む会社としてイメージアップにもなります。

公共交通機関として社会的責任と使命を果たすべく、安全輸送の重要性を再認識していただくためにも安全運転中央研修所の研修を是非ご利用ください。

ブレーキング研修について

ブレーキングには、通常の運転でかける「通常ブレーキ」と、緊急時にかける「急ブレーキ」があります。もちろん普段の運転においては「急ブレーキ」をかけないような運転を心がけることが重要ですが、緊急時には事故を避け、または被害をできるだけ少なくするため効果的な「急ブレーキ」をかける必要があります。

そんなことは当たり前と思う人も多いと思いますが、実は咄嗟の時にしっかりとブレーキを踏めない人が意外と多いのが現状です。

安全運転中央研修所のブレーキング研修はほとんど全てのカリキュラムに含まれており、車をできるだけ短い距離で安定して停止させる急ブレーキを体験・訓練するとともに、坂道、カーブ、高速走行時など特殊な状況でのブレーキングやABS装着車のブレーキングについて体験します。この研修を通じて、ブレーキングの難しさやABS装置の限界を理解した上で、危険予測をした運転がいかに大切か学ぶことができます。



○ ABS装着車の効果的なブレーキング

初めてブレーキング研修を受ける人のほとんどが「急ブレーキを踏む」と意識していてもABS装置を作動させるほどのブレーキングはできません。

ABS装置を作動させる領域までブレーキを効かせるには研修生自身が想像していた以上にブレーキを強く踏まなければいけないのです。

つまり、ABS装置を作動させたことのない人は、いざというときもABS装置を作動させることはできないでしょう。

教官による正しい運転姿勢、正しいブレーキ操作の指導後、多くの研修生がABS装置を作動させて急ブレーキを踏むことができるようになります。

この体験が、「力」になるのです。

ABS装置がついていれば安心というものではなく、正しくその効果を理解し、必要なときに作動させなければ避けられる事故も避けることはできません。

使うことがないのが一番なのですが、ブレーキングは命に関わる一番重要な部分ですので、是非、一度体験してみることをお勧めします。



限界までブレーキを踏むことは訓練や体験をしないとなかなか実践することはできません。

研修を受け、効果的なブレーキングを体得することで、咄嗟のときでも力強く一気にブレーキを踏むことができるようになります。

皆さんも安全運転中央研修所に入所し、ブレーキング研修を体験してみたいですか。



教官コーナー

奥山 靖明 実技教官

(奈良県警から出向)

「いかに伝えるか?」について日々、思い悩む... 日本最高 (いや、世界か!?) の交通教育機関「中研」に来て約3年、仕事に対して真摯に取り組んできましたが、理解が深まればまた新たな疑問が浮かぶ繰り返し。

しかし、より多く悩んだ分だけ、確実に成長するとの確信があります。

残りの任期はわずかですが、最後の研修を終えるまで、全力で取り組んでいきます。



有隅 賢吾 実技教官

(福岡県 博多の森ドライビングスクールから出向)

中央研修所の教官として採用され、早2年半を迎えました。

研修所の充実した設備環境と長年培われた研修内容を生かして、研修生の皆さんに分かりやすく伝え、安全運転に対する意識の変容を目標に研修を行っています。

今後も、自己を高め、研修生の記憶に残る研修を目指していきます。



特産品の紹介

■ひたちなか市の特産品「ほしいも」について

ひたちなか市は、日本のほしいもの生産量の7割を占めると言われる、日本一のほしいも産地です。ほしいもとは、白い皮の原料いもを収穫後に寝かせて甘みを出し、その後長時間蒸し、つき台と呼ばれる台でスライスした後に天日に干して作られる天然の甘味です。

■ほしいもの歴史

古くは100年ほど前、明治時代に静岡から伝播したと言われています。

昔から高級甘味として重宝されており、現在でもお歳暮などの贈り物に好まれています。

■ほしいもの特徴

麦芽糖などのお芋由来の糖を多く含み、それでいてカリウムなどの栄養価も豊富で、さらに食物繊維も多く含有している食品です。

お芋由来の自然な甘さは、火に炙ることによって引き立ち、ほしいも自体もやわらかい歯ざわりになります。



栄養価が高く、便秘やむくみにも効果的といわれています。



安全運転中央研修所の売店でも毎年10月から3月まで販売しておりますので、この時期のお土産にお勧めです。

平成27年中の主な行事

安全運転中央研修所では、安全運転研修のほか、全国規模の安全運転競技大会等も開催されています。平成27年中の主な行事を紹介します。

【第18回SDAセーフティコンテスト】



9月12日(土)、「第18回SDAセーフティコンテスト」が開催されました。安全運転中央研修所での開催は今回で5回目です。



原付三輪スクーターによる中低速車両感覚走行競技が行われ、各社から選抜された選手により、熱戦が繰り広げられました。

【第46回全国白バイ大会】



10月10日(土)・11日(日)、「第46回全国白バイ安全運転競技大会」が開催されました。大会開会式の模様です。



大会1日目のバランス走行競技の模様です。全国から選抜された白バイ隊員が日頃の訓練の成果を遺憾なく発揮し高レベルの技術を競い合いました。



大会1日目、トライアル競技の模様です。



大会2日目、傾斜走行競技(スラローム)の模様です。大会は、第1部で神奈川県警察、第2部では熊本県警察が優勝しました。

【第47回トラックドライバー・コンテスト】



10月24日(土)・25日(日)、「第47回トラックドライバー・コンテスト」が開催されました。スラローム(前進)競技の模様です。



コンテスト2日目、スラローム(後進)競技の模様です。各地区予選を勝ち抜いてきた精鋭ドライバーが参加し、プロトラックドライバー日本一を競いました。